

第1学年 生活科学習指導案

1 単元名 なつとなかよし ～たのしいあそび いっぱい なつだいすき～

2 単元について

(1) 学習指導要領から

本単元は、生活科の内容(5)(6)とかかわりのあるものである。その中でも特に、

(6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫して作ったりすることが主な活動である。そして、その過程を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで遊びを楽しむことができるようにすることを目指している。

ここでいう身近な自然とは、児童を取り巻く自然の中から、児童が自分の遊びの目的のために選出した自然のことである。(例 土、水、石、砂、光、影、風など)

また、身近にあるものとは、日常生活の中にある様々なものの中で、児童が遊びを工夫したり、遊びに使うものを作ったりするために使おうと選び出す事物などのことである。

(2) 単元の目標

夏の遊びを通して、身の回りのものを使って遊ぶことの楽しさを実感したり、身の回りのものを使って遊ぶことができるということに気付いたりするとともに、友だちとのふれあいを大切にして、夏の遊びを楽しむことができるようにする。

(3) 単元の評価規準

- 夏の遊びに関心をもち、みんなで楽しく遊ぼうとしている。(生活への関心・意欲・態度)
- 身の回りにあるもので遊びに使えるものを考えたり、遊び方を工夫したりして夏の遊びを楽しんでいる。
(活動や体験についての思考・表現)
- 夏の遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、夏の遊びを楽しめた自分や一緒に遊んだ友達よさに気付いたりしている。
(身近な環境や自分についての気づき)

3 部会研究課題とのかかわり

研究課題 (1) 具体的な体験や活動を通して、低学年らしい思考や認識を育成し次の活動へとつなげる学習活動を重視する。

○「見付けたり」「比べたり」する活動の繰り返しを通して

水や砂遊びはもちろんのこと、育ててきた花の成長などに進んで関わる活動を通して、子どもは、「自分の目で発見する。」喜びを味わえると考えられる。これは、対象と自分との関わりが深まり、そのものの価値に気付けるようになっていくと思われる。また、遊びを考える活動の中で、「なぜぼくのシャボン玉は、大きくできないのかな。」「友達のシャボン玉は、たくさんできるのにぼくのはどうして少ないんだろう。」と友達の遊びと比べてみたり、「なにが原因なのか?」といろいろな原因を関連付けながら考えたりする。「比較と関係付け」を自ら行うことによって気づきの質が高まり、次の活動への期待が膨らんでいくと考える。そのことから、本時では、子どもたちが自分の遊びを見直したり、友達の使っている道具と自分の使っている道具を比べてみたりして繰り返し遊ぶことができるようにしていきたい。

○活動したことや気づきを表現し、生かす場の工夫

活動する中で得られた思いや気づきを表出することや、それらを伝え合い、共有することは、活動の質の高まりを促すことに有効だと考える。本単元においても表現し、生かす場を工夫し学習活動の中に適切に設定していくことで充実した活動体験が行えると考える。具体的には次に示す通りである。

- ・学習過程の工夫……単元や毎時の学習過程の中に自分の活動を振り返り、見つけたことや伝えたいことを話せるような場を設ける。
- ・見直す時間の確保…気づきの交流があった後で友達を真似てやってみたり、もう一度試す時間の中で、気づいたことを見直したりすることで実感を伴うようにする。

研究課題（3）自分自身や自分の生活について考え、新たな気づきを生み出す「身近な生活に関わる見方・考え方」を育む生活科を実践する。

○子どもの思いや願いを支える材料の確保

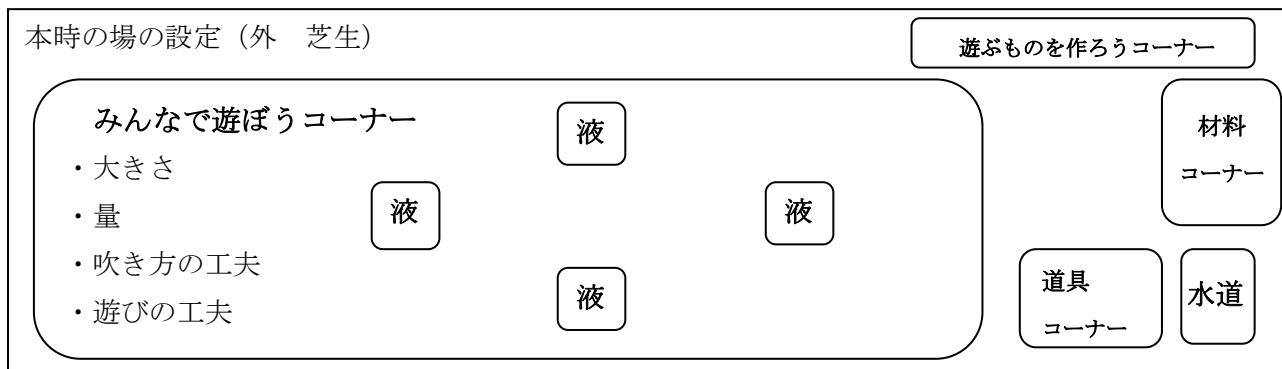
遊びをさらに楽しくするための道具づくりで、子どもの思いや願いに近づけるための豊富な材料を確保する。そうすることによって、十分にももの（対象）と関わり、感動を味わったり、様々な発見をしたりする。子どもたちは自分の思いや願いを実現するために深く思考し、材料を選びながら遊び道具を作ったり、使ったりして遊びを楽しむことが期待できる。例えば、しゃぼん玉遊びの活動の中で、子どもたちは、「もっと大きいしゃぼん玉をつくりたいな」という願いをもつ。

このような願いを叶えるために、子どもたちは豊富な材料の中から、太さの違うストローを見つけ使用したり、ストローの先端に切り込みを入れたりして自分の思いに沿った遊びを行っていくことで主体的に取り組むことができ、次なる活動への意欲を高めることができると考える。

○子どもの思いや願いを大切にしたい場の工夫

本時の場所を屋外にすることで、広々した中で活動することができ、子ども同士での関わり合いや活動の幅を広げられることが考えられる。みんなで遊ぼうコーナーでは、作りたいシャボン玉の目的に合わせて場所を分け、子どもたち同士が、情報を共有したり遊び方等を相談したりすることができるようにする。また、遊ぶものを作ろうコーナーでは、材料コーナーから必要な材料を持っていき、遊びに使うものを身近な材料で作れるように設定する。そうすることで、遊びに使うものを子どもたちなりに工夫して作り、遊びがさらに広がっていくと考える。道具コーナーには、遊びに使えるような身近な道具などを用意して、子どものイメージしているシャボン玉を作るのに使えるような道具を見つけ出して、遊べるようにする。

このような集う環境を設定することで、子どもたちは「もっとうまく作る方法があるかもしれない」「友達の考えた遊びもやってみたい。」「違う道具を使って遊んでみたい。」という思いをもち、意欲的に学習に取り組むのではないかと考える。




4 児童の実態から

(1) この単元を通して育てたい子どもの姿と子どもの思い・願い

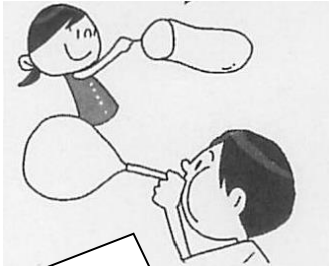
この単元を通して育てたい子どもの姿

- 夏の遊びに関心を持ち、遊びに使うものを集めたり、作ったりして楽しく活動している子ども。
- 身の回りにあるもので遊びに使えるものを考えたり、遊び方を工夫したりして夏の遊びを楽しんでいる子ども。
- 夏の遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、夏の遊びを楽しめた自分や一緒に遊んだ友達によさに気付く子ども。

夏が近づいてきて暑くなってきたね。水遊びしたいな。




子どもの思い・願い



幼稚園や保育園でシャボン玉で遊んだことがあるよ。学校でもみんなと遊んでみたいな。

身の回りにある道具でシャボン玉遊びをもっと楽しくできないかな。



(2) 教師の願いと配慮事項

教師の願い

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
教師の願い	①夏の遊びに関心を持ち、身の回りの材料で作った道具を使って楽しく活動してほしい。	②身の回りにあるもので遊びに使えるものを考えたり、遊び方を工夫したりして夏の遊びを楽しんでほしい。	③夏の遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、夏の遊びを楽しめた自分や一緒に遊んだ友達によさに気付いてほしい。
配慮事項	①これまでに経験したことのある夏の遊びを話し合い、楽しかったことや嬉しかったことなどを振り返り、夏の遊びに関心がもてるようにする。繰り返し遊ぶ時間を確保して、児童の思いや願いが叶えられるようにし、意欲をもって活動できるようにする。	②あらかじめ遊びの計画や準備をしておき、家庭と連絡を取って自分の思いや願いが叶うような遊びになるように道具や材料を集めておくようにする。 材料や道具は、児童の実態に応じて必要なだけ準備する。	③夏の遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、自分の見つけたことや友達の気付いたことなどを共有したりできる活動や場を工夫する。

(3) 配慮事項に関する実態

○配慮事項①に関して

・夏遊びに対する興味・関心

これまでに経験した夏の遊びを聞くと、暑い中でのプールや海でのスイカ割りなど水に関係する遊びが楽しかったと答える子どもが多かった。また、幼稚園や保育園でのシャボン玉遊びや色水遊びで楽しんだことやカブトムシやトンボなど生き物と遊んだことなどの経験を振り返ることができた。子どものほとんどが夏の遊びを喜ぶ様子が伺えたが、中には、数名、暑いのが嫌いな子どもや生き物が嫌いな子どももいるので、単元を通して、夢中になるような遊びを十分に味わうことができるようにしていきたい。また、水遊びが夏の遊びだと感じている子どもが多く興味をもっていたので、子どもの関心の高いものを中心に指導計画を工夫し、「やってみたい」という思いがもてるようにして意欲を持ち続けることができるようにしていきたい。

○配慮事項②に関して

・身の回りにあるものを使って遊んだ経験

これまでに子どもは、幼稚園や保育園などで身近にある材料（段ボールや牛乳パック、ストローなど）で遊びに使えるようなものを工作の時間や遊びの中で加工したり、その材料を使って遊んだりして楽しむ経験をしてきている。そのことから身の回りにある物を使って遊ぶことが好きだと答えた子どもは多かった。この経験を生かして、身の回りにある物で遊びに使えるような物を子どもの思いや願いに沿って準備したり、保護者に協力して一緒に集めてもらったりして活動を十分に楽しめるようにしていきたい。また、どの子どもにも材料や道具が行き届くように、あらかじめ一人一人の思いや願いを把握しておき準備ができるようにしておく。

○配慮事項③に関して

・夏の遊びの面白さや自然の不思議さへの気付き

これまでに砂遊びや水遊びの経験があり、楽しかったと答える子どもが多いことから遊び始めから友達と一緒に遊ぶ児童も多くいると考えられる。しかし、何人かは友達と遊びたいけどうまく関わられず楽しめないと答えた子どももいるので、一緒に活動しながらその友達の作った遊びなどを紹介し、遊びの面白さを広げていきたい。また、友達同士の遊びをつなげていけるようにして「みんなでやると楽しいね。」と友達と一緒に遊ぶことの面白さに気付けるようにしたい。一方、遊びに一人で没頭する子どももいると考えられる。その子どもの発言や行動も大切にして、遊んでいるときの自分の見通しと事実が異なったときに生まれる疑問や自然の中にきまりを見つけるなどしたときには、紹介して、その子どもを中心とした関わりが生まれるようにしていきたい。

・自分や友達のよさへの気付き

学習中、遊ぶ時間を十分に確保することで子どもたちは、遊びの中で見つけたことや伝えたいことを教師や友達に伝えながら遊ぶことが考えられる。そのつぶやきを拾い上げ、全体で共有し、再び個に戻す言葉がけを工夫して、自分の見つけたことやできたことなどを振り返ることができるようにしたい。そのために、毎時間、遊んだ後にみんなの前で楽しく遊べた子を紹介したり、気付いたことを話せるような場を設け、活動の質を高めていきたい。また、友達の話を聞いて「教えてもらった吹き方でシャボン玉を吹いたら割れずにとんで楽しかったよ。○○ちゃんのおかげだね。」と楽しめた自分と友達のよさにも目を向けられるように振り返る場を工夫していきたい。

5 活動の流れ（10時間扱い）

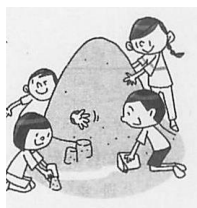
小単元 たのしいあそび いっぱい なつだいすき（10時間）

小単元の評価規準

- ◎砂遊びやシャボン玉遊びに関心をもち、楽しもうとしている。（関心・意欲・態度）
- ◎身の回りにあるもので遊びに使えるものを考えたり、遊び方を工夫したりして夏の遊びを楽しもうとしている。（思考・表現）
- ◎夏の遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたり、夏の遊びを楽しめた自分や一緒に遊んだ友達よさに気付いている。（気付き）

○経験したことのある夏の遊びを振り返る。（1）

- ・季節の特徴をとらえるようなこと。
- ・夏の自然物を使った遊び。



○砂遊びをする。（2）

- ・泥だんご、山づくり等の砂遊び。

○シャボン玉を作って遊ぶ。（1）

- ・自分たちでシャボン玉液を作って遊んでみる。

○作りたいシャボン玉のイメージをもって道具を工夫して遊ぶ。（1）〈本時2／2〉

- ・同じイメージ同士の友達と比べたり、競争したりして遊ぶ。

○水遊びをする。（2）

- ・水てっぽうやほかけ舟等の水遊び。

○育てた花や実、身近な草花を使った遊びをする。（2）（雨天での本時2／2）

- ・色水遊び
- ・色染め
- ・たたき染め
- ・押し花

○これまで遊んだ夏の遊びを振り返る。（1）

【留意点】

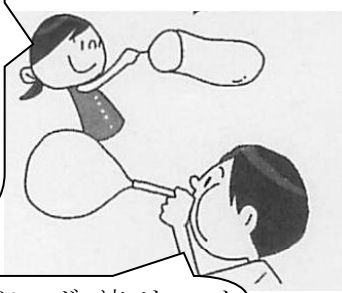
- ・存分に活動できるよう、場所や時間、材料や道具は十分に整えておく。
- ・遊ぶものを作るときは道具の取り扱い方法を十分に説明し、安全に使えるようにする。
- ・シャボン玉液を誤飲したり、目に入ったりしないように、安全に扱えるようにする。
- ・一人遊びを経て、教師も一緒に活動しながら、自分のつくった遊びを紹介し、子どもたちの遊びが広がるようにする。
- ・自分の頑張りや友達のよい面を見つけられた子どもは、賞賛し、互いのよいところを取り入れられるようにする。
- ・工夫しながら遊んでいる子や道具を工夫している子を紹介して広め、もう一度、見直す時間を確保するようにする。
- ・色水を作るときは、花や実によって濃さに違いがあるので、事前に作って、どのくらい必要なのか調べておく。
- ・これまでの遊びを振り返り、自分自身のできるようになったことや楽しめたことなどを実感できるよう話し合う時間をつくる。
- ・道具の使い方、また、後片付けをしっかりとできるよう助言する。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

○身近な材料や道具を工夫して使い、シャボン玉で楽しく遊ぶことができる。

(2) 展開 (5 / 10)

学習活動と内容	教師の支援 (○) と評価 (☆)
<p>1 身近な材料や道具を使って、どのようなシャボン玉遊びをするのか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きいシャボン玉が作りたいよ。 ・たくさんシャボン玉がでるようにしたいよ。 ・シャボン玉に色がつくのかためしてみたいよ。 ・ストローでどれだけ大きいシャボン玉ができるか友達と競争したいよ。 <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>○前時の活動から、自分はどんなシャボン玉を作って遊びたいのか確認させ、学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>○本時のめあてを全体で確認できるように掲示する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>みのまわりにあるざいりょうやどうぐで、たのしくしゃぼんだまであそぼう。</p> </div>	
<p>3 遊ぶときの約束を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まった遊ぶ場所で遊ぶ。 ・友達と仲良く、安全に遊ぶ。 <p>4 自分の選んだ道具で遊ぶ。</p> <div data-bbox="159 1220 678 1668" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  <p>ストローじゃなくてハンガーでやさしく風を入れると大きなシャボン玉ができたよ。</p> <p>同じシャボン液でも、ストローの太さが違うとシャボン玉の大きさも違うよ。</p> </div> <p>5 楽しかったことや工夫したことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローでやるよりもハンガーで作ったほうが大きく作れたよ。息よりも風のおかげかな。 ・友達とどちらがたくさんシャボン玉が作れたか競争したら楽しかったよ。 	<p>○シャボン玉液を誤飲したり、目に入ったりしないように、安全に扱えるように呼び掛けるようにする。</p> <p>○決まった場所で遊び、十分に安全に注意するよう声かけをする。</p> <p>○遊ぶものを作るとき道具の取り扱い方法を十分に説明し、安全に使えるように使える場所を決めておく。</p> <p>○一人一人が遊びやすいように、声かけをする。うまくできなかったところは、材料コーナーで直すよう促す。</p> <p>○失敗しても繰り返し取り組む子に対しては褒めるようにし、活動の励みになるよう声かけする。</p> <p>○つまづいている子どもには、シャボン玉の息の入れ方の加減や道具にシャボン液が付きやすい工夫をするよう声をかけたり、実際に一緒にやってみせたりする。</p> <p>☆身近な材料を工夫して使って、楽しく遊ぶことができる。(思考・表現)</p> <p>○遊びの中から発見したことや工夫したことなどを、発表させることによって、気づきを広めるようにする。</p> <p>○聞き手の子は、活動を振り返り、自分の遊びと比べながら、話を聞くように声かけする。</p> <p>☆身近な材料を工夫して使って、楽しく遊べたことや気付いたことを発表しようとしている。(思考・表現)</p>

<p>・やさしく吹いたら高く飛んでいくシャボン玉が作れたよ。</p> <p>6 発表を聞いて、試してみたいことでもう一度遊ぶ。</p> <p>・友達の言うように勢いよくやらずにやさしくやったら大きいシャボン玉ができたよ。</p> <p>・友達の使っていた、穴の多い道具を使ったらたくさんシャボン玉を吹くことができたよ。</p> <p>7 後片付けをする。</p>	<p>○友達から聞いたことをもとにもう一度、試す時間を確保し、友達の気付きを実感できるようにする。</p> <p>○自分のやっていた遊びを見直したり、試したりするのであって新しく遊びを見つけてやるのではないことを確認して遊ぶように声をかける。</p> <p>☆遊んでいる友達の様子や作ったものを通して、友達や自分のよさに気付くことができる。(気付き)</p> <p>○使った材料や道具を片付けるように助言し、道具を大切に扱う心を育てるようにする。</p>
---	---